



法人だより

たまふく

新保育園ができるまで

しろくま保育園 園長 佐藤 博樹

しろくま保育園が開園して1年を迎えました。園長の佐藤博樹です。私は2004年にこぐま保育園に保育士として入職し、その後、練馬区立向山保育園・上北沢こぐま保育園を経て現在に至ります。多摩福祉会とともに歩んできた20年は、私の人生の半分以上。自分らしく、飾らずにいられる場所だからこそ、続けてこられたのだと思います。

今回は、しろくま保育園開園までの歩みを振り返ります。2006年4月、私たちは練馬区で向山保育園を受託しました。当時は1法人1施設では運営が難しくなり、公立保育園の民間委託が広がり始めた頃でした。それから十数年が経ち、向山保育園周辺での人事交流や保育向上を見据え、新たな園づくりの準備が始

まりました。

2022年5月、練馬区谷原五丁目で見設保育所の運営事業者を募集する公募がありました。前年には杉並区の公募に挑戦し、最終選考で落選を経験していましたので、「今度こそ」という強い思いで臨みました。応募・プレゼンを経て、20を超える事業者の中から多摩福祉会が選ばれ、職員みんなで喜び合いました。

しかし喜びも束の間、決定は2022年10月。開園は2024年4月。準備期間はわずか1年半しかありません。建設、行政手続き、人事異動や採用、資金計画、保育方針の検討など、本当に多くの課題がありましたが、こどもたちが安心して生活できる保育園を作るために、法人職員が一丸となって取り組みました。「しろくま保育園」というすてきな園の名前は法人職員の投票で決定。法人職員の中からしろくま保育園への異

今号の目次

- 1p 新保育園ができるまで
- 2p 初めてコマ遠征と
砧保育園との交流
- 3p 保育園のカレー
- 4p あとがき
- 5p 学童新施設長より
- 6p 2025年度新入職員交流会
- 7p 学童連載 最終回
- 8p お知らせ

「たまふく」のご感想をお聞かせください。



編集

◆広報委員会◆
中本琢也・江藤龍之介
亀田大・岡田織



発行

〒155-0031
東京都世田谷区北沢 2-36-9-4F
社会福祉法人多摩福祉会
法人事務局
◆Tel. 03-6804-8345
◆Fax. 03-6804-8347
tamafukushikai@gmail.com

のだからということに改めて気づかされました。

入園した66名の子どもたちは、泣いたり不安になったりしながらも、この1年間でぐんと成長しました。笑顔が増え、自分の気持ちを表現できるようになり、園内を歩けばどこでも「えんちよーせんせー！」と声をかけてくれます。子どもたちから元気をもらいながら、これからも職員みんなで一緒に成長していきたいと思っています

動者が徐々に決定し、園舎や保育室の設計、どんな保育を目指すのかを一から丁寧に話し合いを重ねました。その過程で、保育園づくりがいかに緻密で、子どもの目線に立った丁寧な準備の積み重ねであるかを改めて実感しました。

そして、食堂ホールを中心に1階の全保育室と給食室がつながり、吹き抜けで1階と2階がつながる、人と人とのつながりを作ってくれるすてきな園舎が完成しました。

新設園の開園は本当に目が回るほどの慌ただしさでした。2024年3月1日の園舎引渡しから開園までの1か月間、職員の手で少しずつ「しろくま保育園」が形になっていきました。バタバタと駆け回ってはいましたが、それでも大人しいので静かなものです。4月、子どもたちが入園してきてくれて、保育園はこんなにぎやかで活気がある



初めてのコマ遠征と 砦保育園との交流

永山小学童クラブ 放課後児童支援員

3月26日（水）に砦保育園へ行き、「コマを使った交流」を行いました。もともとは12月の予定でしたが、感染症拡大のため断念となり、日を改めて3月に実施することになりました。

「永山小学童クラブ唯一のコマ名人」を始めとした3年生男子3名、2年生（男子1名・女子2名）3名、計6名の精鋭が選出され、砦保育園へ向かいました。

朝8時30分頃、小田急線の先頭車両に乗りし、ちょうど満員電車の時間帯でしたが無事に祖師ヶ谷大蔵駅に到着。そこから保育園までの道のり、祖師ヶ谷大蔵の賑わう商店街を通ります。その様子を見て「多摩市とは全然違う」と驚いていました。砦保育園には3つの部屋があり、到着後は2人1組の3ペアになって交流を開始。A（女子のペア）、B（2、3年生男子混合ペア）、C（3年生男子ペア）に分かれました。Cのペアは部屋の掃除を担当し、重いものを運ぶなど力仕事もありま

したが、2人とも存分に力を発揮し、大活躍でした。AとBのペアは近くの公園にお散歩へ。保育園の子どもたちと手をつないで歩き、公園では楽しそうに遊びました。Bの子たちは園児を相手に本気でドロケイをしていました。

園に戻るといよいよ昼食の時間です。Aのペアは先生と一緒に食堂の準備を手伝い、先生から「本当に助かる！」と喜ばれていました。給食は「ツナカレー」で、給食の先生方の思いが伝わる優しい味でした（隣の「砦のカレー」のお話もぜひご覧ください）。

小学生（特に男の子）たちは、大人と同じ大きさの皿で食べ、気づけば2杯3杯とおかわりをしていました。食後は進んで食器を片付け、給



手をつないで公園へ

食の先生から「どうだった？」と聞かれると「美味しかった！」と答えていました。

昼食の後は、いよいよコマの交流です。コマ名人が「空中手のせ」

「つなわたり」「けん玉もしかめ」など多彩な技を次々と披露し、保育園の子どもたちや先生たちから「すごすぎる：!!」と驚きの声飛びました。続いて他の子たちも得意な技を見せ、保育園の先生たちから「どうやったらそんなに上手になれるの?」「この技はどうしたらうまくできる?」とたくさん質問を受けていました。園児たちからも「どうやるの?」と聞かれて優しく教えていました。

交流が終わり、学童クラブに帰る時間になりました。見送りに来てくれた園児が「○○ちゃん、ばいばい!また来てね!」と手を握ってくれた場面がとても印象的でした。今日の出来事をお互いに話しながら駅まで向かいました。電車に乗ると少し疲れた様子の小学生たち。見知らぬ街での交流で緊張もあったのでしよう。

学童クラブに戻るとちようどおやつの時間。おやつを食べた後はそれ



園児の前にちょっぴり緊張の面持ち

までの様子とは打って変わって「校庭へ行ってくる!」と元気いっぱい。さっきまでの疲れはどこへ?と耳を疑うほど元気になり、その体力に驚かされました。

今回、初めてコマを使った保育園との交流を行いました。永山小学童クラブで長年積み上げてきたコマ遊びを活かし、こうして砦保育園で技を披露して、園児や先生たちと交流できたことは大きな成果です。今回で終わりにせず、今後も法人内の保育園との交流を続けていきたいと思っています。



見事な技にみんなびっくり!

調理師亀田がいく

それぞれの
保育園の
カレー



砧保育園調理師の亀田です。今回から多摩福祉会の保育園それぞれのこだわりカレーを紹介する新企画が始動！

記念すべき第1回はわたしが所属する砧保育園のカレーです。すべてを手作りします。

★ 鶏ガラ、かつおぶし、くず野菜でブイヨンをとります。

鶏ガラは一度茹



で、水を捨て、内臓や余計な脂を取り除き、朝から煮出します。具に使う野菜や果物の皮や軸などと、かつおぶしを加え煮出すと美味しいブイヨンができます。

★ ルーを作ります。薄力粉をオーブンでじ



つくり焼き、香りと色を出していきます。

フードプロセッサーでサラサラにした後、米油と溶かしバターを加えよく混ぜます。市

販のルーに比べて

油の量も少なく、

小麦とバターの香りがしっかりしたルーになります。

◆ 作り方



① 鍋に米油をしきニンニクのみじん切りを加え、香りを出し、肉

を加え炒めていきます。

② 肉の色が変わったら野菜を加え

炒めます。

③ チャツネ（フルーツのペースト）の代わりにリングとセロリをベ

ーストにして鍋に加え、生姜の絞り汁とブイヨンを入れ煮込んでいきます。

④

野菜に火が通ったら調味料とカレー粉、ルーを加え弱火で煮込んで完成です。

できあがり！



がんばってキャベツをちぎってくれました



美味しそうに食べるお兄さんに釘付け



この日はツナカレーでした。午前中に幼児がサラダのキャベツ千切りのお手伝いをしました。お昼は永山小学童クラブのお兄さん、お姉さんと一緒に給食を食べました。

小学生の気持ちよい食べっぷりに刺激され、いつもよりたくさんおかわりする子どもたちが多くいました。ボランティアで来てくれる卒園児たちは、昼食がカレーと分かると「やったー！」と大喜びしてくれました。カレー以外の日にも「この献立好き！」と声をかけてくれることがあります。保育園の味を覚えてくれてるのが嬉しいですね。

砧保育園のカレーは

いかがでしたか？



普段食べているカレーと比べると、非常に優しい味。給食職員のみなさんが「子ども達に美味しく食べてもらいたい」という気持ちで作っているのが伝わってきて本当に美味しかったです。

砧保育園のみなさん、

ありがとうございました。

放課後児童支援員

ほら、もう食べちゃった。「おかわり!!」



お姉さんたちと一緒に！



あとがき

前監事 柿田 雅子



公立保育園の一介の保育者に過ぎない我が身に、民間の、法人の仕事がまさか降りかかろうとは。理事、評議員に次いで監事の役を振られたときには、耳や目を疑うというより法人を疑ったものです。まず前任のかたがたとのこの落差。長さ350mの立山・称名の滝が濠と落ちるかのよう。それから業務監査の守備範囲に迷いつつの務めとなりました。はたには気負いとも映る逸脱や、もしや怠慢といったものがあつたかもしれませぬ。

不備を見つけて歩くような監事業務は好きになれませんでした。実践に出会えたのはなんとも幸運でした。あの子やこの子、そして職員のみなさんのまなざしや息づかいまで

もが感じ取れるような珠玉ともいえる記録の数々に接して、なんたつて楽しかったです。

現場や本部事務局のかたがた、役員諸氏、どなたからもたくさんの方のこを教えてもらいました。任期終了の今、私の迷走をそれとなく正し、陰でも支えてくださった垣内国光先生に感謝し、みなさま方お一人お一人を思い浮かべてお礼を申し上げる次第です。ありがとうございます。この邂逅による学びを大切にしたいと思います。

多摩福祉会は、人権尊重の歴史を刻んできた法人です。でも、だからといって民主的な毎日が約束されているわけではないと思っています。意識し、つくっていかねければ雲とも霧ともなつて、消えてなくなってしまうのが民主主義ですから。

『イーハトーボの劇列車』は、宮沢賢治の夢や挫折を描いた井上ひさしの戯曲文学です（新潮文庫）。終幕、死の世界へ旅立つ列車に乗りこむ農民は、生の世界に残した思いを切符に託して語ります。賢治の終詞。「ひろばがあればなあ。どこの村にもひろばがあればなあ。村の人びと

が祭りをしたり、談合をぶったり、神楽や鹿踊りをたのしんだり、とにかく村の中心になるひろばがあればどんなにいいかしれやしない。」

誰もがつどつて語り合う「ひろば」。ユートピアを夢見る賢治に、日本の村さ「広場」なんて、今まであつたべが。「広場」があつたら、たとえば百姓一揆はずいぶん成功したと思うす、となぜ語らせるか。そこには、今からほんの百年前にはなかつた「自分が主人公」、つまり主権は私や私たちにあるという考えと振るまいの定着を願う戯作者井上ひさしの切々たる「思い残し」があつてのことではないでしょうか。舞台は、「万感の思いをこめて」思い残り切符が観客に向かって撒かれ、幕となります。

先に生きた人の思い残しを胸に、次の世代の人々は新たに思いをおこして時代を、社会を築くもの。その手にあるのを「思いおこし切符」と名付けましょうか。日常の聞くこと話すことをうんと大事にして、自分たちやみんなのひろばをつくつていかれたらすてきです。うまくいかなければ新規まき直して、歩み続ける

多摩福祉会であつてほしいと願います。お世話になりました。

柿田雅子（かきた まさこ）先生

は、幼稚園教諭・保育士として現場でのご経験を積まれ、公立保育園の園長を歴任されました。その後、実践女子大学や明星大学で非常勤講師として教育者の育成にご尽力され、長年にわたり乳幼児期、幼年期の子ども達の発達と保育実践の橋渡しをされてきました。社会福祉法人多摩福祉会では、理事、評議員、監事として長きにわたり法人運営に貢献され、2025年6月まで法人の健全な運営に力を尽くされました。いつも穏やかで優しいまなざしと、心遣いで見守ってくださったことに深く感謝申し上げます。現在は全国幼児教育研究協議会の世話人として活動され、乳幼児保育や保護者支援に関する研修・講演を実施されています。2025年2月には、垣内国光理事とともに編集代表として、多摩福祉会の異年齢保育に関する本「きもちつながる異年齢保育」の出版にご尽力くださいました。

新施設長より

永山小学童クラブ施設長 山本 裕子



2025年1月より、多摩市永山小学童クラブの施設長をしております山本裕子です。子どもたちからは「ひろちゃん」と呼ばれています。機会があったら覗きにきて声をかけてください。

私は東京の杉並区で育ちました。都心へのアクセスが良い反面、家や建物が密集しており、今でも夏に帰省すると一日中エアコンにお世話になる生活が続いています。結婚後、夫の実家である多摩市に引っ越し、緑豊かな公園の多い環境で子育てを始めました。男の子3人、しかも上二人は年子で、1歳空いて下の子がいるという、年の近い子どもたちでした。年齢が近いので、遊びもケンカも激しく、家の中には穴が開いた壁や千切れたカーテンもありました。

時には一緒にゲームをしたり、草野球をしたり、公園で元気に走り回ったりして過ごしました。

3人とも小学生の頃からハンドボールを始め、夢中になりました。中学、高校、大学とさまざまな大会に出場し、インターハイ、選抜、C1、ユース、インカレなどの大きな大会にも選ばれました。応援するのは楽しかったものの、代表としての責任を負う子どもたちの日々の食事や体調管理、怪我の管理などにはプレッシャーを感じるが多かったです。

子育ての中で、私が子どもたちに育ってほしい姿を考えることがありました。具体的には、①自分のことは自分でできる子、②信頼し合える仲間を持つ子、③自分の人生を楽しめる子どもです。人生は思い通りにいかないことも多く、どうしてもない時もあります。でも、どんな時も育ってきた経験と受けた愛情が今後の人生の助けになると信じています。

子どもたちはすでに三人とも巣立ち、それぞれ自分の道を歩んでいます。ですが、愛情を注ぎ大切に育てたことが、しっかりと彼らの中に根付いて

いると感じています。その気持ちは、学童クラブで出会う子どもたちに対しても同じです。保育のプロとして、子どもの成長を見守り、寄り添っていくことが大切だと思いますが、縁あって出会った子どもたちと保護者の思いを共有し、一緒に育てていきたいと思っています。

学童クラブでは、子どもたちが毎日学校や自宅であった出来事をたくさん話してくれます。もちろん、言葉にするのが難しい子もいます。以前、ある子が涙を止められず30分ほど事務室で泣き続けていたことがありました。落ち着いてから話を聞くと、友達とケンカをして仲直りできていないことをぼつりぼつりと語ってくれました。

学童クラブは、放課後の一時を過ごす場所ではありますが、それだけでなく、一緒に過ごす仲間がいる大切な場所だと考えています。そして、いつか卒業していく姿を思い描きながら、彼らの成長を見守り続けるかけがえのない時期だと思っています。そのためにも、今日もたくさんさんの愛情を注ぎ、楽しく安心できる居場所作りに励んでいきたいと思っています。

ユース代表ユニフォーム



ユースアジア大会
ヨルダンにて



ナショナルトレーニング
センターでの練習風景



大学時代の兄弟対決

ハンドボール界で、小学生の頃から大学まで努力を重ねてきた山本三兄弟。長男（法政大）はチームを支える存在として活躍し、次男（立教大）は185センチの恵まれた体格を武器に、攻守両面で力を発揮しました。三男（法政大）も兄たちとともに注目され、大学リーグでは夢の兄弟対決も実現。互いに切磋琢磨しながら成長する三人の姿は、多くの人の記憶に残っています。現在は第一線を離れ、趣味程度に楽しくプレーを続けているそうです。

2025年度新入職職員交流会

リクルート委員会

新年度のスタートから約3か月が経った6月27日、上北沢こぐま保育園で「新入職員交流会」がおこなわれました。参加者は、2024年9月から2025年4月にかけて入職した職員18名。保育士・放課後児童支援員・栄養士・看護師と、職種も年齢もバラエティに富んだメンバーが集まりました。

オンライン就職説明会の開催をはじめ、職員採用のために日々活動している「リクルート委員会」が主催するこの交流会。4月から勤務を始めた職員のみなさんが、ちょうど疲れの出やすいこの時期に、同期やリクルート委員として活動している先



「以心伝心」ゲーム。ユニークなヒントやとっさのひらめきに歓声が上がります。



白熱の白黒ひっくり返しゲーム。すでにみんなへろへろです。



安川理事長からは、ご自身の入職当時の体験談を交え、これからのみんなの成長に期待がふくらむお話がありました。

輩保育士たちと交流を深め、日々の楽しさや不安を共有することで、安心して働き続けるエネルギーにつなげてもらおうという企画です。

リクルート委員も交えた4チームに分かれて簡単な自己紹介を終える

と、いよいよゲームがスタート。

最初の「以心伝心ゲーム」では、仲間から出されるヒントをもとに問題を当てます。的確なヒントに思わず感嘆の声が上がったり、突拍子もないヒントに大笑いが起こったりと、会場は大いに盛り上がりました。

続くのは、床に散らばったコマを自分のチームの色にする白黒ひっくり返しゲーム。見た目以上に体力を使うこのゲームでは、フラフラになりながらも熱戦が繰り広げられました。



見事優勝したチームには高級アイスが！

優勝チームには高級アイスクリーム、その他の参加者にも（普通の）アイスが配られ、味わいながらのグループ談笑。ゲームを通じてぐっと縮まった距離感で、日ごろの思いや不安を語り合う姿も見られました。

最後は安川理事長の新人保育士時代の楽しいお話で交流会は明るく締めくくられました。同期や先輩たちとともに、この交流会で生まれたつながりを大切にしながら、笑顔あふれる毎日が続きますように。

私の勤める学童クラブは、保育園と比べて職員数が少ないため、学童クラブだけでなく保育園の新人の皆さんとも関わることで、とても楽しかったです。お互いの施設の子どもたちの様子を話し、年齢や地域による子どもたちの違いを感じながら交流した今回の交流会は学生の頃にはなかった新鮮な機会だったと思います。

放課後児童支援員（貝取小）

入職してから慌ただしく毎日が過ぎ、同じ園の同期ともほとんど話せないまま3か月近くが経っていました。そんな中、新人交流会では同期や法人の方々とゲームやお話することができ、楽しい時間を過ごせました。ゲームでは初対面の方とのチームで緊張しましたが、作戦を考え一緒に取り組むことで仲良くなれました。チームごとのお話の時間では様々な園の話聞き、他園について知る貴重な機会となりました。

交流会を通じて、これまで挨拶程度だった同期とも長く話すことができ、同園・他園を問わず交流が深まり、今後につながるきっかけとなりました。開催していただきありがとうございました。

保育士（向山保育園）

卒クラブについて

これまで第一回『学童クラブの受け入れ』（た
まふく第18号）、第二回『夏休みを越えて』（第
19号）、第三回『新年度がはじまりました』（第
20号）と、三回にわたり学童クラブの様子を紹介
してきました。いよいよ第四回となる今回は、
最終回として「卒クラブ」についてお話ししたい
と思います。もし第一回から読んでいない方がい
らっしゃれば、ぜひそちらも合わせてご覧ください
い。

さて「卒クラブ」とは、学童クラブを退所する
ことを多摩市ではそう呼んでいます。ほとんどの
子どもたちは3年生の3月をもって卒クラブしま
すが、4年生以降も続ける子もいれば、逆に1・
2年生のうちに卒クラブする子もいます。その理
由は家庭の事情や在籍要件の変化、あるいは「も
う自分で大丈夫」と家庭が判断する場合などさま
ざまです。

学童クラブで過ごす日々の中で、子どもたちは
多くの経験を積み重ねていきます。そして卒クラ
ブ後は、地域の中で放課後を過ごすようになりま
す。公園や児童館、友達の家、放課後子ども教室
など、過ごし方も多様です。

私が生どものころは、学校で「今日遊ぼう」と
約束したり、連絡網を使って家の電話で友達にか
けたりしていました。けれども今の子どもたちは、
まず自分の親に確認し、相手の子に確認し、それ
をまた親同士で調整する……と段取りが増えてい
ます。学校の連絡網がなくなったことや、家庭で

固定電話を使わなくなったことなど、社会の変化
も背景にあります。そのため遊ぶ約束をすること
自体が難しくなっているのです。とはいえ、そう
した試行錯誤の中で子どもたちは人との関わり方
を学び、失敗を重ねながら少しずつ成長してい
きます。

学童クラブでは、卒クラブを見据えて放課後の



連載～最終回～（全4回） 卒クラスについて



見せてくれるのです。

もちろん、時には「学童なんてやめてやる！」
と大きな声で叫ぶ子もいます。それでもそんな子
が卒クラブ後に「○○（先生）いる？」と顔を出
してくれることもあります。さらに中学生になっ
て職場体験で来たり、高校生になってボランティア
やアルバイトとして戻ってきたりする姿もあり
ます。その成長した姿に出会えるのは、学童クラ
ブ職員にとって何よりの喜びです。

3月31日、卒クラブを迎えた子どもたちを見
送り、翌日4月1日には新しい1年生を迎え入
れます。出会いと別れを繰り返しながら、学童クラ
ブの日々は続いていきます。さて、今度の1年生
たちはどんな経験をし、どんな風に成長してい
くのでしょうか。今からとても楽しみです。

結びにかえて

全4回にわたり「学童クラブ」について書か
せていただきました。保育園の先生と話す中で「学
童って意外と知られていないんだな」と感じたの
がきっかけです。その後、法人の学童クラブ会議
で「たまふくで紹介してみよう」と提案してい
ただき、広報委員会に相談した結果、私が担当す
ることになりました。書き進めるうちに子どもたち
との毎日を思い返すだけでなく、自分の小学生の
頃のわくわくした気持ちまでよみがえり、とても
楽しい時間でした。学童クラブにはまだまだ伝え
たいことがたくさんあります。今後は私だけでな
く他の職員の声も届けていけたらと思います。こ
の連載が保護者や法人職員の皆さんに「学童クラ
ブってこんなところなんだ」と感じてもらえるき
っかけになれば嬉しいです。ご協力いただいたみ
なさまに感謝致します。ありがとうございました

筆者：中村 輝（なかむら あきら）

2011年貝取学童クラブ入職、その後コロナ禍で
の施設長3年間を経験。現在は3児（小4女子、小
1男子、3歳女子）のパパ。毎日仕事・育児・家事
に絶賛奮闘中！昨年度は1年間、保育士としてこ
ま保育園に勤務し、新たな経験を積んで再び学
童クラブに戻ってきました。

『きもちつながる異年齢保育』を
刊行しました

異年齢保育の中で育つ子どもたち。日常の生活と遊びの場（おうち・クラス）で、どのような姿をみせながら成長していくのか。

「1〜5歳」「3〜5歳」「学童期」と多摩福祉会各施設からの異年齢保育の実践を紹介し、その魅力を伝えます。子どもの育ちや学び、保育、学校教育のありかたを考えるヒント満載の一冊です。

多様と包摂が問われる時代、違いの中で豊かに育ちあう子どもの姿をみつめ、その声に耳を傾けてみませんか。

保育や教育に関心をおもちのすべてのかたがたに、ぜひ読んでいただきたい本です。

Amazon、楽天ブックスなどから送料無料でご購入いただけます。「きもちつながる異年齢保育」を検索してください。



オンライン就職説明会を

開催しています



2026年度、2027年度採用に向けてオンライン就職説明会を開催しています。
今の保育園での保育に悩まれている方、しばらくブランクがあるけれどまた保育士として働きたい方、来年再来年に保育科を卒業される方など、みなさんのお近くにいらっしゃいませんか？ぜひご紹介ください。

まずはオンライン就職説明会に出席してみませんか？現役の保育士が参加して、本日の保育の様子、園の雰囲気、休暇の取得状況やお給料などなど、なんでも答えます。

今後の開催日程は採用ホームページからご確認ください。

2026年卒・2027年卒・中途採用対象

就職説明会

オンライン開催 少人数制 簡単エントリー

POINT! 説明会参加で「1000字レポート」免除! POINT!

社会福祉法人 多摩福祉会

こくま保育園（多摩市）・向山保育園・しろくま保育園（練馬区）
祐保保育園・上北沢こくま保育園（世田谷区）・学童クラブ（多摩市）
お申し込みはこちらのQRコードから

多摩福祉会

多摩福祉会も

SNSやっています！

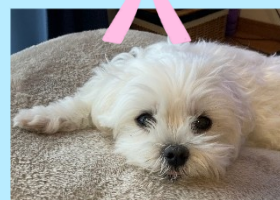
多摩福祉会では Instagram やXのアカウントも持っています。

特にInstagramは、各保育園の日々の様子がよく分かると好評です。各園の担当者が毎週楽しい写真をアップしてくれています。ぜひご覧ください。



多摩福祉会
Instagram

我が家のペット紹介



ポムちゃん（9歳）
マルチーズ

広報委員オカダ家のアイドル。抱っこキャベツが大好きな甘えん坊。女の子です。

「たまふく」の
バックナンバーは
こちらから。

